

# 郷土博物館・文学館だより



当館では、平成 26 年 1 月 17 日まで、「ハチ公」展を開催しています。

連日たくさんの方が来館し、賑わっています。特に会場ではハチ公の肉声が出るコーナーが人気を集めています。

## 特別展

# 「ハチ公」展、開催中！

亡くなった飼い主を渋谷駅で待ち続けたハチ公の物語は、今日でも語り継がれ、多くの人に感動を与えています。さらに渋谷駅前にある忠犬ハチ公の銅像は、待ち合わせの場所として、日本全国は元より海外にまで知られています。しかし、意外にもハチ公の生涯と関係した人々の実際の姿については知られていません。

そこで、ハチ公誕生より 90 年目に当たる今年、真実のハチ公の物語を多くの人に知っていただきたいと考え、「ハチ公」展を開催しました。

より多くの方に見ていただけることを期待しています。



11 月 23 日に行われた展示解説風景



忠犬ハチ公チョコレート  
（『美談忠犬物語』より）

ハチ公の人気から、昭和 10 年前後、たくさんのハチ公関係商品が作られました。あまり知られていませんが、「忠犬ハチ公チョコレート」という商品も販売されました。

## ターミナルデパート 東横百貨店 開店営業！

平成 25 年 3 月 16 日、東京メトロ副都心線に東横線の乗り入れが開始されました。現在、東横線渋谷駅の名物であったかまぼこ型の屋根も解体が進み、渋谷駅の再開発が進んでいます。

今からさかのぼること約 80 年前、昭和 9 年（1934）11 月 1 日、渋谷駅にある大きな建物が完成しました。それが東横百貨店、現在の東急百貨店東横店になります。当時の建物は、今まさに解体中の東館でした。建物は、戦後増築を重ね、今の店舗の形になりました。

東横百貨店は、関東で初の私鉄直営のターミナルデパートとして開業しました。建物も地下 1 階、地上 7 階建てです。建物が完成した頃は、まさに渋谷駅がターミナル駅となった時期です。渋谷駅はまず明治 18 年（1885）に日本鉄道の駅として開業し、その後、約 40 年の間に玉電、市電、東横線、井の頭線があいついで乗り入れました。そして最後に乗り入れたのが、地下鉄銀座線でした。百貨店開業 5 年後の昭和 14 年、渋谷―浅草間が全線開通し、渋谷は華やかな街・浅草とつながりました。

昭和 7 年 10 月 1 日、渋谷・千駄ヶ谷・代々幡の三町が合併して渋谷区が誕生しましたが、その年、東京横浜電鉄株式会社（現在の東京急行株式会社）の専務をしていた五島慶太ら会社の重役たちは、ある決断を下します。それは、「鉄道が西へ延びていくに従い、郊外に住む人たちはショッピングに困るだろう。その玄関口である渋谷にはまだ百貨店がない。東京の西南部の玄関口となった渋谷に百貨店をつくろう。」という主旨のものでした（『東京急行電鉄 50 年史』

より）。こうして百貨店建築が決まりました。

東横百貨店を開業するにあたって、当時の経営者たちは、ある百貨店を参考にしました。それは関西で先に成功を収めていた小林一三の阪急百貨店です。小林はこの頃、東京横浜電鉄株式会社の取締役でもありました。

本部組織に百貨店部も新設し、経営的に難しいという意見もあったようですが、着々と準備が進み、昭和 9 年にオープンということになりました。営業時間は午前 9 時から午後 9 時まで、年中無休。用品・雑貨・食料品などの日用品を重点に、書籍も販売していました（書籍は、半年遅れで開業）。当時、多くの百貨店は呉服を中心に販売していましたが、東横百貨店は独自の販売方針を打ち出し、売り上げを伸ばしました。

しかしその後、小売店を保護するためなどの目的で、百貨店法が昭和 12 年に制定されます。このため、東横百貨店の特徴であった経営方針は、「休日を設ける、営業時間は短縮する」など、当初の方針とは異なるものに変更せざるを得ない状況になったようです。



昭和 9 年 東横百貨店と東横線渋谷駅



## 渋谷にあった遠藤周作の「狐狸庵」

カトリック作家で知られる遠藤周作は、大正12年（1923）に東京で生まれました。平成25年（2013）は、生誕90年という記念の年になります。

遠藤は、昭和9年（1934）にカトリックの洗礼を受けました（洗礼名Paul）。慶應大学卒業後、昭和25年にカトリック留学生として、戦後最初の日本人留学生となって渡仏しました。帰国後は、評論や小説に取り組み、安岡章太郎、吉行淳之介、庄野潤三、近藤啓太郎、三浦朱門らと交流を深めてゆきました。

遠藤は、日本の文化風土とキリスト教を根幹とするヨーロッパの精神風土から生じた「日本的汎神論」と「西欧的一神論」との対比を作品の主題に据え、存在論上の意味を問い続けました。昭和30年に芥川賞を受賞した『白い人』をはじめ、『海と毒薬』（昭和33年）、『沈黙』（昭和41年）、『深い河』（平成5年）などの作品は、こうした考究のあとに生み出されました。

また、ルオーの描く人間臭いキリスト像に、絶対者としてのキリストというよりも、人間の嘆きに寄り添い、苦しみをともにする「人生の同伴者」としてのキリストの姿を見出し、遠藤は大きな共感を寄せています。

こうした一方で、「狐狸庵もの」「ぐうたらシリーズ」といったユーモアあふれるエッセイを手がけ、遠藤の人気は不動のものとなりました。シリーズタイトルにもなった「狐狸庵」は、柿生（玉川学園）にあったことが知られています

が、「踏絵」というエッセイの中で、狐狸庵は昭和38年に柿生に転居する前の渋谷の住まいに初めて付けた名前だったことを明かしています。

私は渋谷、松見坂のほとりに同じく狐狸庵とよぶ草蘆を持っていた。松見坂は江戸名所図会にも描かれた場所であるが往時は清例なる流れと畠のみであった。しかるに、今はトラック、バス、タクシーの往復おびただしく、もはや住むべき地にあらねば、遠くこの柿生の里に居を移しささやかなる庵を結んだ次第である。（新装版『狐狸庵閑話』 昭和55年 講談社）

その後も遠藤は南平台や代々木富ヶ谷などに仕事場を構えました。昭和52年のエッセイ「日記から」には、「七月某日」と題して次のような文章があります。

仕事場で仕事。夜、走って渋谷に行き、「サスペリア」という怪奇映画を見る。……霧雨のなかを「五十四歳の男」「五十四歳の男」とひとり呟きながら渋谷の裏町を歩き回る。易者が一人、建物のかげで客を待っている。一度通りすぎて、眼鏡をとり、彼に手をさしだす。心も身も疲れている、と彼に言われる。



新装版『海と毒薬』 平成23年 講談社



## 収蔵資料紹介



### だせいせきふ 打製石斧 (縄文時代)

最大長 9.41 cm (上部欠損)  
最大幅 7.11 cm  
最大厚 1.61 cm

現在、私たちが使用している道具にはさまざまなものがあり、それらは鉄やプラスチックなどいろいろな素材からできています。日本では弥生時代になって、大陸から鉄などの素材が伝わりました。それまでは、石を割ったり、木を切ったりする道具の素材には、主に石が使われていました。石を材料にした道具は、一般に石器と呼ばれています。石器はその製作の違いから、石を打ちかいたり押しはいたりして作られる打製石器と、打ちかいた石を使って、さらに磨いて作る磨製石器などにわかれます。

上記写真の資料は、そのような石器のなかでも、打製石斧と呼ばれているものです。恵比寿にある豊沢貝塚遺跡から出土しました。石斧は、主に木製の柄につけて使用していました。柄に装着する違いで、縦斧と横斧の二種類にわけられます。また木を切り倒す時によく使われた石斧は、刃が木に入り易い磨製のもが使われていたと考えられています。一方、打製石斧は、文字通りの斧として使用した場合もありますが、土を掘る道具としても使われていました。

縄文時代の遺跡からは、竪穴住居や土坑など土を掘ったできた生活の跡が数多くみつかります。それらは、こうした打製石斧などを使って掘られていたようです。打製石斧の形は板状のものや分銅形のものなどいろいろあります。今回の打製石斧は分銅形で、人の手で握りやすいように、上手に工夫されていました。

### 【開催中の展示】

#### 特別展「ハチ公」展

平成25年10月22日(火)～平成26年1月17日(金)

※17日まで会期が延長となりました。

#### ■展示解説

平成26年1月11日(土)午後2時から

### 【開催予定の展示】

#### 企画展「絵図・地図で読み解く渋谷」展

平成26年1月23日(木)～平成26年3月23日(日)

館所蔵の絵図・地図資料により、江戸時代から現在に至るまでの渋谷の街の歩みを紹介します。

## 白根記念 渋谷区郷土博物館・文学館

SHIBUYA FOLK AND LITERARY SHIRANE MEMORIAL MUSEUM

開館時間 ◆ 9:00～17:00 (入館は16:30まで)

※震災に伴う節電を継続し、開館時間を13:00から変更しています。詳細については、お問合せください。

休館日 ◆ 月曜日(休日の場合はその直後の平日)・年末年始

入館料 ◆ 一般:100円(80円) 小・中学生:50円(40円)

※18歳未満は小学生料金

70歳以上の高齢者、障害のある方は別途お問い合わせ

お問合わせ ◆ 東京都渋谷区東1丁目9-1 TEL:03-3486-2791

郷土博物館・文学館だより vol.24  
平成25年12月20日発行